

平成17年（2005年）の災害記録

- [・ 6月～9月上旬の少雨（長期）・多照（長期）による感慨（太平洋高気圧）](#)
- [・ 7月1日～8月8日の赤潮による赤潮害](#)
- [・ 7月8日～11日の大雨・強雨・による](#)
[山がけ崩れ害・洪水害・浸水害・強雨害（梅雨前線、暖気移流）](#)
- [・ 9月4日～7日の大雨・強雨・強風・波浪による](#)
[山がけ崩れ害・浸水害・強風害・海上波浪害・沿岸波浪害（台風第14号）](#)
- [・ 12月21日～22日の大雪・強風による積雪害・海上波浪害（冬型）](#)

※目次に戻る場合は標題をクリックしてください。

1124 平成 17 年(2005 年)6 月～9 月上旬の少雨(長期)・多照(長期)による干害

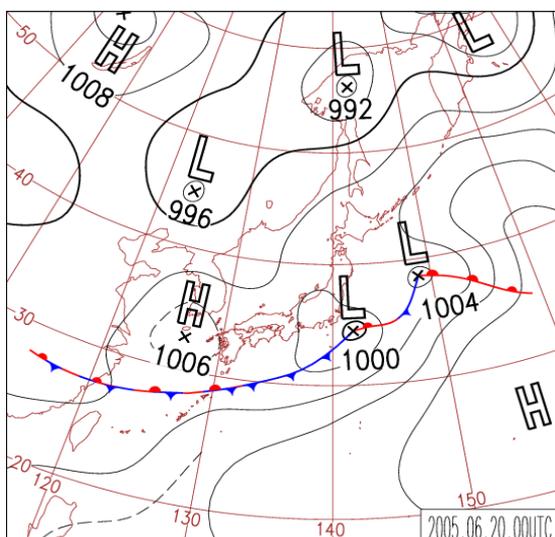
(太平洋高気圧)

[気象概況]太平洋高気圧の勢力は平年に比べやや強い程度だったものの、熱帯の海面水温が高く、全球的に対流活動が活発だったため、北半球全体で気温が高く、6 月から 8 月の平均気温は全国で高温となった。梅雨入りは南西諸島を除き平年よりも遅く、6 月は梅雨前線が南西諸島から本州南岸に停滞することが多かったため、九州北部は平年に比べ少雨となった。

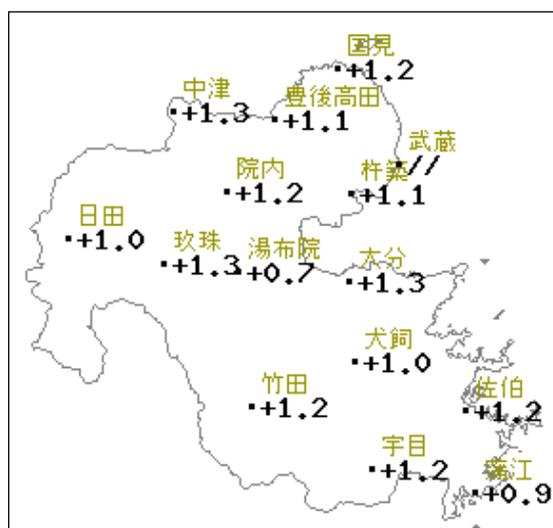
東日本太平洋側の一部と西日本では、6 月の降水量が記録的に少なく、4 月以降の少雨による渇水状況が続いた。その後、7 月前半を中心に梅雨前線の活動が活発となり多雨となったものの、梅雨明け後の西日本では太平洋高気圧に覆われ再び少雨となった。

6 月の月降水量(少ない方から)は、全観測所で 6 月の極値を更新した。

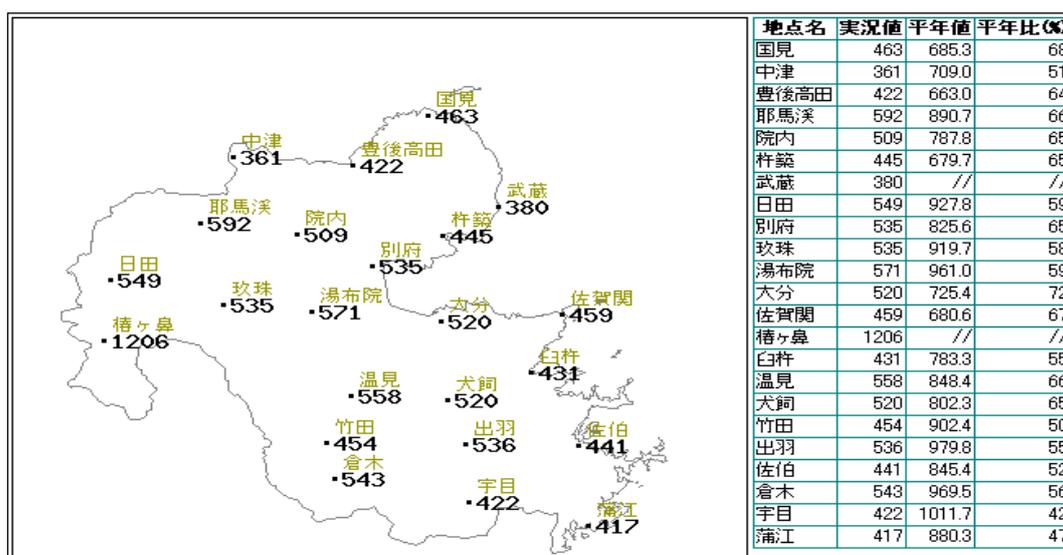
6 月の月平均気温(高い方から)は、湯布院を除く観測所で 6 月の極値を更新した。



地上天気図 6 月 20 日 09 時



6 月～8 月の平均気温の平年差



6 月～8 月の降水量とその平年比

観測項目	観測値	起時・期間	観測地点
期間降水量(平年比)	496.0mm (68%)	6月3日～9月3日	大分
無降水継続日数 (日降水量1mm未満)	19日	8月1日～8月19日	佐伯(a)
無降水継続日数 (日降水量1mm未満)	19日	8月1日～8月19日	国見(a)
日最高気温(平年差)	36.7°C (+3.3°C)	8月4日 15h40m	日田
期間平均気温(平年差)	26.5°C (+1.4°C)	6月3日～9月3日	大分
	26.6°C (+1.4°C)	6月3日～9月3日	中津(a)
期間日照時間(平年比)	548.3h (103%)	6月3日～9月3日	大分
期間日照時間	420.2h	6月3日～9月3日	中津(a)
	533.6h	6月3日～9月3日	豊後高田(a)
月平均気温	24.6°C	6月	中津(a)
	24.1°C	6月	豊後高田(a)
月間日照時間	115.0h	6月	中津(a)
	155.3h	6月	豊後高田(a)

少雨のため、大分県のほぼ全域の農業用ダムの貯水量は少なくなった。

各農業用ダム貯水状況(平成17年8月25日現在)は次のとおり。

ダム名(水系)	現貯水量(千m ³)	貯水率(%)
石場ダム(大野川)	265	12.3
深見ダム(駅館川)	185	14.8
日出生ダム(駅館川)	2,383	33.3
日指ダム(駅館川)	2,102	46.6
師田原ダム(大野川)	1,381	47.4

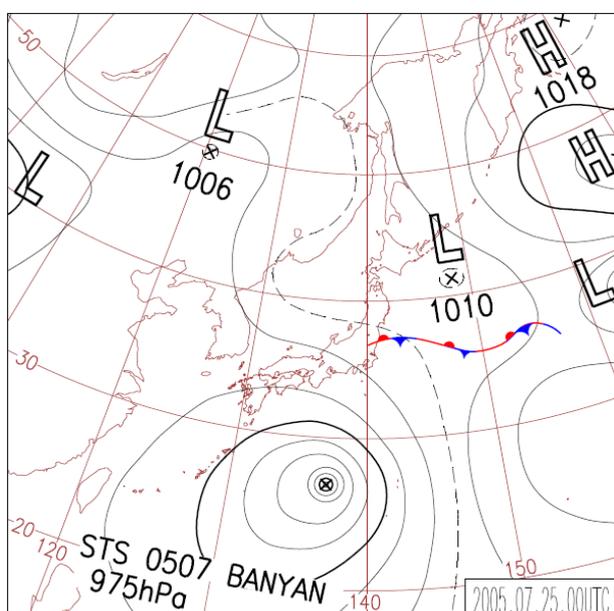
[被害状況]6月から9月上旬までの少雨、高温、多照により、水稻、果樹、花卉、茶等の農業被害が大分県各地で発生した。

特に宇佐両院、別杵速見各振興局管内の被害が多く、被害総額は12,172万円に上った。

1125 平成 17 年(2005 年)7 月 1 日～8 月 8 日の赤潮による赤潮害

[気象概況]7 月上旬は梅雨前線の影響により、降水量は各地とも平年よりかなり多かった。特に、8 日から 10 日にかけては、梅雨前線が九州南岸から九州北部付近まで北上したため、大雨となり、3 日間で椿ヶ鼻では 430mm、湯布院で 255mm、耶馬溪で 230mm、大分で 211.5mm、玖珠で 205mm、佐賀関で 170mm、臼杵で 145mm などの降水量を観測した。気温は前半高く、後半は平年並みか低く経過した。

7 月中旬の前半は梅雨前線の影響により、曇りや雨の日が多かった。気温は後半を中心に平年並みか高く経過した。7 月下旬は前半を中心に高気圧に覆われて、晴れの日が多かったが 29 日から 31 日は、前線の影響で県内各地では雨が降った。気温は平年並みか高く経過した。8 月上旬の天気は太平洋高気圧に覆われ、晴れの日が多かった。気温は平年並みか高く経過した。



地上天気図 7 月 25 日 09 時

各湾の赤潮被害状況			
湾	魚種	へい死尾数(累計)	被害形態
臼杵湾	フリ	5,736	海面養殖
	カンパチ	132	海面養殖
	その他	220	畜養中
津久見湾	マダコ	不明	畜養中
	カンパチ	少量	海面養殖
佐伯湾	フリ	41,992	海面養殖
	ヒラマサ	41,873	海面養殖
	カンパチ	3,587	海面養殖
	ヒラメ	96,500	陸上養殖
	トラフグ	32,600	陸上養殖
	その他	14,095	

観測項目	観測値	起時・期間	観測地点
日最高気温(平年差)	36.2°C (+4.8°C)	7月28日 16h28m	大分
	36.3°C (+6.1°C)	7月21日 14h20m	宇目(a)
	32.8°C (+4.3°C)	7月13日 13h00m	佐伯(a)
	35.1°C (+5.6°C)	7月26日 14h20m	蒲江(a)
期間平均気温(平年差)	27.3°C (+1.0°C)	7月1日～8月8日	大分
	26.7°C (+0.9°C)		佐伯(a)
	26.1°C (+0.5°C)		蒲江(a)
期間日照時間(平年比)	207.8h (86%)	7月1日～8月8日	大分
	208.3h (83%)		佐伯(a)
	176.3h (78%)		蒲江(a)
期間降水量(平年比)	285mm (78%)	7月1日～8月8日	佐伯(a)
	194mm (55%)		蒲江(a)
	334mm (97%)		臼杵(a)

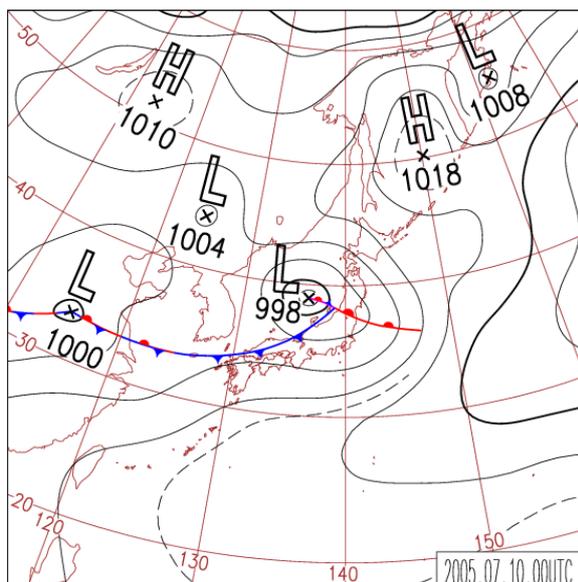
[被害状況]7 月 1 日に臼杵湾で最初に動物性プランクトン「カネア・ミキトイ」が発見された。7 月 12 日に最初に赤潮が津久見湾で発生し、臼杵湾、佐伯湾まで広がり、8 月 8 日に赤潮は収まった。特に 7 月 24 日から 25 日の佐伯湾の赤潮害はひどく、24 日夜から 25 日にかけて、海から取水している陸上養殖のヒラメなどが被害を受けた。死滅したヒラメは 4 万匹以上で、被害額は 6,000 万円を超えた。陸上養殖のヒラメが赤潮の被害に遭うのは極めて珍しいという。佐

伯市林業水産課、県佐伯南郡地方振興局水産課、県漁協佐伯支店などによると、佐伯市大入島の西部にある 4 業者から報告があり、フグやハマチなども被害を受けた。

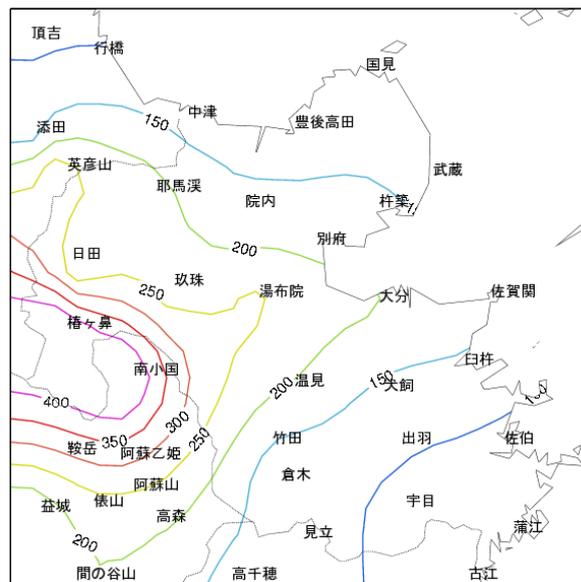
1126 平成 17 年(2005 年)7 月 8 日～11 日の大雨・強雨による山がけ崩れ害・洪水害・ 浸水害・強雨害(梅雨前線・暖気移流)

[気象概況]7月8日夜から9日かけて梅雨前線は九州中部から九州北部へ次第に北上した。10日から11日にかけて梅雨前線は九州北部にあって、大分県は太平洋高気圧の周辺部となり大気の状態が非常に不安定となっていた。このため、9日朝のうちから昼前にかけてと10日は朝と夜に活発な雨雲が前線に沿って帯状に連なり次々と通過した。この間に活発な雨雲の通過した西部や中部の山間部では記録的な大雨となった。10日04時00分には九重町付近で1時間約90mmの猛烈な雨が解析されている。日田市椿ヶ鼻では、10日04時20分までの1時間降水量が60mmの非常に激しい雨を観測し、10日の日降水量は228mmを観測した。日田市上津江振興局では最大1時間降水量92.5mm(10日03時35分)の猛烈な雨を観測し、10日の日降水量は310.5mmを観測した。また、日本気象協会の九重・牧ノ戸峠では最大1時間降水量76mm(10日04時)の非常に激しい雨を観測し、10日の日降水量は371mmを観測した。このため、10日04時頃には日田市、九重町、湯布院町、庄内町付近では、過去数年間で最も土砂災害の危険性が高まった。

降り始めの8日から11日までの期間降水量は西部の山間部で特に多く、日田市椿ヶ鼻では500mm、日田市上津江振興局では571mm、日本気象協会の九重・牧ノ戸峠では571.5mmを観測した。



地上天気図 7月10日09時



降水量分布図 7月8日～11日

7月8日～11日の日別降水量(単位:mm)							
	8日	9日	10日	11日	日別降水量合計	日最大1時間降水量	起時
国見	0	100	33	0	133	35	9日 09h40m
中津	0	74	52	0	126	20	10日 20h30m
豊後高田	0	52	68	0	120	34	10日 20h50m
耶馬溪	0	103	127	2	232	38	10日 21h40m
院内	0	58	91	2	151	38	10日 21h50m
杵築	0	59	109	0	168	32	10日 22h00m
武蔵	0	51	69	1	121	25	10日 22h00m
日田	1	67	96	3	167	28	10日 22h30m
別府	0	86	105	0	191	34	9日 11h40m
玖珠	1	99	105	7	212	34	9日 12h00m
湯布院	3	117	135	3	258	43	10日 19h30m
大分	4	82	125	0	211	33	9日 11h30m
佐賀関	0	40	130	2	172	26	10日 03h50m
椿ヶ鼻	22	180	228	70	500	60	10日 04h20m
臼杵	0	39	106	0	145	28	10日 03h00m
温見	6	53	136	3	198	32	10日 14h20m
犬飼	0	39	90	0	129	19	10日 02h30m
竹田	1	47	88	5	141	25	10日 11h20m
出羽	0	44	73	0	117	24	10日 12h00m
佐伯	0	40	44	0	84	14	10日 10h10m
倉木	9	56	52	0	117	23	10日 12h10m
宇目	0	38	26	0	64	11	10日 11h20m
蒲江	0	43	17	0	60	16	9日 08h50m

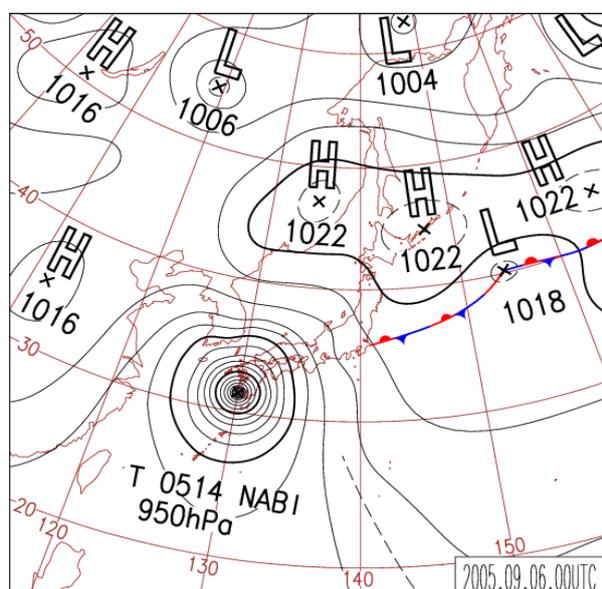
[被害概況]7月10日04時15分頃に玖珠郡九重町湯坪ひぜん湯キャンプ場でひぜん湯川が氾濫し、付近の家屋に土砂が流れ込み2棟が全壊した。この災害で男性1名が死亡し、2名が軽傷を負った。7月10日05時30分頃に日田市上津江町329番地で土砂崩れにより家屋が押し流され、家屋内にいた2名が死亡した。※現地調査では、03時過ぎに隣家がこの災害に遭ったとの報告があった。7月10日04時10分頃に玖珠郡九重町大字後野上小野界橋付近県道飯田高原中村線で県道が損壊した。損壊した県道に車両1台が転落し、県道に沿う玖珠川に流された。この災害で女性1名が死亡し、女性1名が行方不明となった。7月9日から10日にかけての大雨により西部の日田玖珠を中心に死者5名の人的被害と山がけ崩れ、道路損壊、床上浸水、床下浸水等が多数発生した。

被害状況				
死者・行方不明者	5人	道路損壊	163か所	
負傷者	2人	橋の流失	か所	
被災者	人	鉄軌道被害	か所	
住家	全壊・全焼・流失	4棟	山崖崩れ・地滑り	42か所
	半壊・焼・一部破損	2棟	堤防決壊	か所
	床上浸水	18棟	通信施設被害	234回線
	床下浸水	8棟	木材流失	m ³
耕地	流失・埋没	84ha	山林焼失	ha
	冠水	ha	船舶被害	隻
農業被害		ha	か所	
			6021万円	
水産業被害		隻	か所	
			4000万円	
林業被害		m ³	ha	
		か所	186740万円	
交通	陸上			
	海上			
	航空			
電力・水道被害		停電 217戸		
被害資料の入手先		大分県、大分県警察本部		

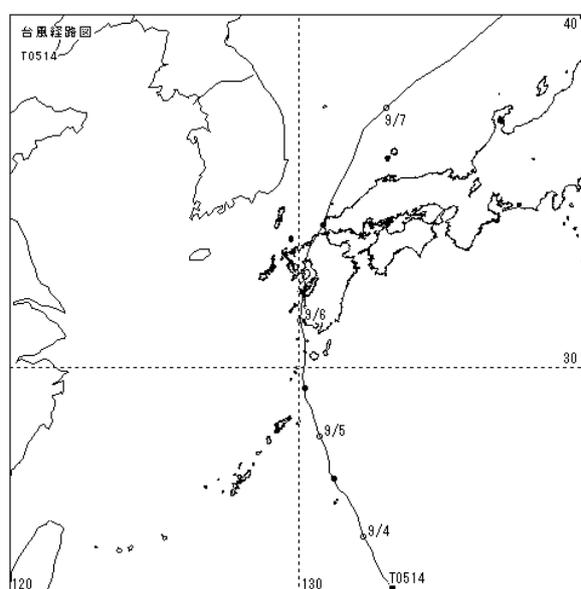
1127 平成 17 年(2005 年)9 月 4 日～7 日の大雨・強雨・強風・波浪による山がけ崩れ害・ 浸水害・強風害・海上波浪害・沿岸波浪害(台風第 14 号)

[気象概況]8 月 29 日 21 時にマリアナ諸島で発生した台風第 14 号は、ゆっくり西へ進みながら次第に勢力を強めた。9 月 1 日には中心付近の最大風速が 50m/s、風速 15m/s 以上の強風域の半径は 600km と「大型で非常に強い」勢力となった。5 日夜に屋久島の西海上を通過、6 日には九州の西岸に沿って北上し、13 時頃に熊本県天草下島付近を通過した後、14 時過ぎに長崎県の諫早市付近に上陸した。上陸時の中心気圧は 960hPa、最大風速は 35m/s、風速 15m/s 以上の強風域の半径は東側 750km、西側 650km で「大型で強い」勢力であった。上陸後は勢力を弱めながら佐賀県から福岡県を通過し、20 時頃響灘へ抜けた。その後、速度を速めながら日本海を北東へ進んだ。このため、大分県では 4 日 23 時には南部、西部、中部の全域が、5 日 02 時には大分県の全域が風速 15m/s 以上の強風域に入った。6 日 06 時には南部と西部の一部が、10 時には大分県の全域が風速 25m/s 以上の暴風域に入った。県内では 5 日昼過ぎから平均風速 10m/s を超えるやや強い風が吹きはじめ、暴風域に入った 6 日昼前からは南東部沿岸を中心に 20m/s 前後の暴風が吹き、大分では 10 時 24 分に東南東の風 37.5m/s、日田では 22 時 39 分に南西の風 21.3m/s の最大瞬間風速を観測した。また、台風第 14 号は九州南海上から九州西岸を時速 20km 前後と自転車並みのゆっくりとした速度で北上したため、九州の太平洋側の山沿いに台風からの暖かく湿った空気が長時間流れ込んだ。台風の発達した雨雲がかかり始めた 5 日昼過ぎからは南部の山間部を中心に 1 時間に 30mm を超える激しい雨が降り始め、6 日日中まで降り続いた。

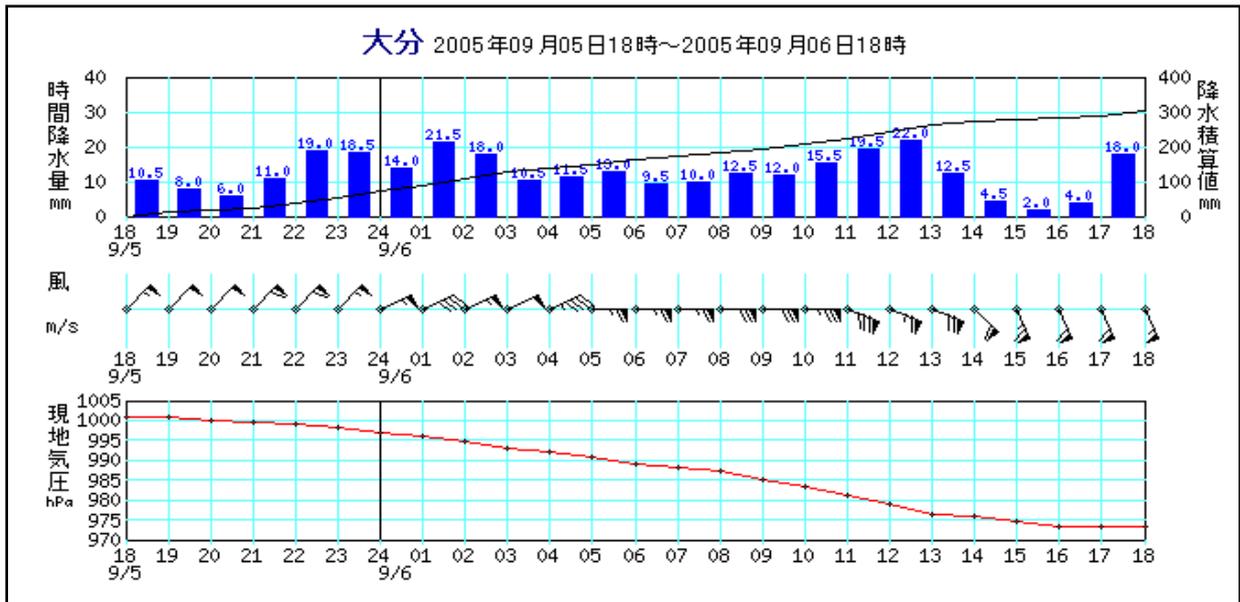
4 日から 7 日の総降水量は、倉木で 913mm、宇目で 747mm、湯布院で 726mm をはじめ 8 観測所で 500mm 超す大雨となった。日降水量で、5 日に 1 観測所、6 日に 7 観測所が年間の極値を、6 日に 1 観測所が 9 月の極値をそれぞれ更新した。高潮の状況では大分港の最大潮位偏差は 83cm(6 日 15 時 29 分)、最高潮位は TP 上 172cm(6 日 21 時 11 分)だった。9 月は 1 年間で最も潮位が高くなる時期であったが、台風が通過した 6 日は中潮であり、また最大偏差が観測されたのは干潮時頃(干潮:15 時 40 分)であった。



地上天気図 9月6日09時



台風第 14 号経路図 9 月 4 日～7 日



9月4日～7日の日別降水量(単位:mm)と日最大風速風向(単位:m/s)											
観測地点	4日	5日	6日	7日	日別降水量合計	日最大1時間降水量・起時	日最大風速・風向・起時				
国見	3	52	235	0	290	43	6日 12h30m	11	北東	6日 12h20m	
中津	13	28	214	0	255	26	6日 06h30m	16	東	6日 12h00m	
豊後高田	5	31	154	0	190	17	6日 11h30m	22	東	6日 13h30m	
耶馬溪	23	97	267	4	391	24	6日 18h30m				
院内	31	103	326	0	460	38	6日 11h40m	9	東北東	6日 11h40m	
杵築	5	53	95	0	153	14	6日 02h30m	18	東南東	6日 13h10m	
武蔵	4	48	188	0	240	23	6日 03h30m	25	東南東	6日 14h00m	
日田	12	20	142	2	176	20	6日 17h20m	11	南西	6日 24h00m	
別府	20	81	180	0	281	29	6日 13h00m				
玖珠	19	78	164	1	262	25	6日 03h30m	17	東南東	6日 12h20m	
湯布院	45	204	476	1	726	40	6日 04h40m	15	南西	6日 22h40m	
大分	20	123	232	0	375	27	5日 23h20m	18	東南東	6日 10h20m	
佐賀関	16	97	231	0	344	35	6日 13h30m				
椿ヶ鼻	18	72	294	29	413	54	6日 17h10m				
白杵	35	188	322	0	545	48	6日 13h10m				
温見	34	214	284	0	532	31	6日 00h40m				
犬飼	28	159	288	0	475	40	6日 12h50m	8	南西	6日 23h30m	
竹田	29	178	329	0	536	39	6日 08h20m	8	東	6日 12h30m	
出羽	43	170	298	0	511	32	6日 12h30m				
佐伯	57	196	310	0	563	41	6日 13h20m	15	南	6日 16h30m	
倉木	50	467	396	0	913	54	5日 21h20m				
宇目	56	238	446	7	747	41	6日 13h00m	10	南	6日 14h30m	
蒲江	58	174	132	0	364	25	5日 16h30m	25	南南東	6日 14h00m	

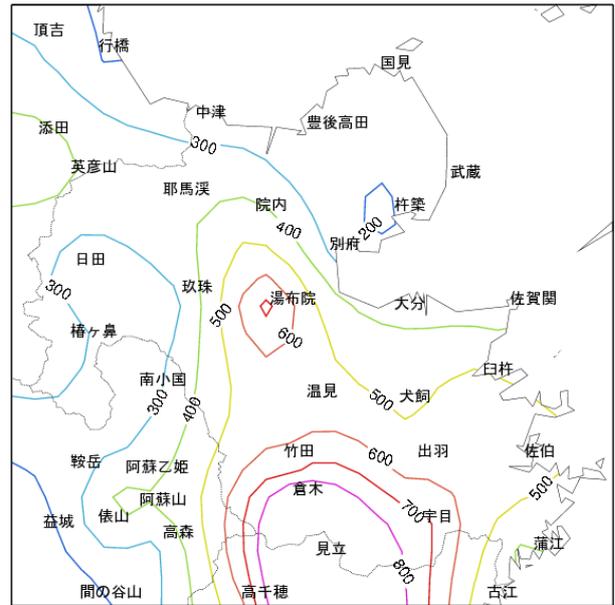
[被害概況]台風第14号の大雨により、6日12時10分に竹田市荻町南河内で住家裏山の土砂が流出し、女性2名が滝水川に流された。6日11時20分頃、湯布院町下湯平で土石流が発生し、近くを流れる花合野(かごの)川が氾濫。近くの民家に濁流が流れ込み、女性1名の行方が分からなくなった。その後、竹田市荻町南河内で滝水川に流された女性2名は遺体で発見された。湯布院町下湯平の花合野川に流された女性1名も遺体で発見された。

佐伯市直川大字赤木で男性1名が6日の08時頃から13時頃までの間、家の見回り中に転倒し、その影響で7日に死亡した。その他、大雨と暴風により、重傷者4名、軽傷者7名の人的被害があった。また、県内各地で記録的な大雨により、山が

け崩れ、道路損壊等が多数発生した。大分市、佐伯市、臼杵市、杵築市、湯布院町等は床上浸水、床下浸水が続出した。

(交通機関) 台風の影響で5日から7日かけて、航空便、JR、フェリー、バス等の交通機関は欠航、運休が相次いだ。特に6日は各交通機関ともほぼ全便が欠航、運休した。(農林漁業関係被害) 台風第14号の強風と大雨により、ほぼ大分県全域にわたり、水稻の倒伏や野菜、果樹、花卉の被害やビニールハウスの損壊の被害が発生した。また、農地・農業施設、林業関係、漁業関係被害も発生した。農業関係842,000万円、林業関係228,900万円、漁業関係78,600万円、被害総額1,149,500万円に達した。

(その他) 県内各地で6日、倒木などの影響で停電が相次いだ。九州電力大分支店によると、最大時は9市3町の計30,500戸。道路陥没のため復旧作業が遅れた地域もあり、大分市や佐伯市の一部地域などでは終日停電が続いた。県教育委員会によると、台風接近の影響で、県内の公立学校は5日、562校のうち252校が途中下校や臨時休校になった。6日は、ほぼすべての学校が休校か自宅待機にした。県教育委員会のまとめでは、5日に途中下校したのは小学校174校、中学校65校、高校(全日制・定時制)6校、盲・聾・養護学校5校。定時制高校2校が休校になった。6日は502校が休校、55校が自宅待機になった。



降水量分布図 9月4日～7日

極値表(大分地方気象台)		
観測項目	観測値	起時・期間
日最大風速・風向	17.5m/s 東南東	6日 10h20m
日最大瞬間風速・風向	37.5m/s 東南東	6日 10h24m
期間降水量(平年比)	375.0mm(1,221%)	4日～7日
最大日降水量	232.0mm	6日
日最大1時間降水量	26.5mm	5日 23h39m
日最大10分間降水量	8.5mm	5日 23h06m

被害状況				
死者・行方不明者		4人	道路損壊	570か所
負傷者		11人	橋の流失	か所
被災者		人	鉄軌道被害	か所
住家	全壊・全焼・流失	7棟	山崖崩れ・地滑り	57か所
	半壊・焼・一部破損	142棟	堤防決壊	か所
	床上浸水	324棟	通信施設被害	393回線
	床下浸水	977棟	木材流失	m ³
耕地	流失・埋没	702ha	山林焼失	ha
	冠水	ha	船舶被害	16隻
農業被害		11487ha		5090か所
				842000万円
水産業被害		50隻		169か所
				78600万円
林業被害		m ³		19ha
		555か所		228900万円
交通	陸上	運休		
	海上	欠航		
	航空	欠航		
電力・水道被害		停電 30500戸		
被害資料の入手先		大分県、大分県警察本部、大分合同新聞		
報告刊行物				

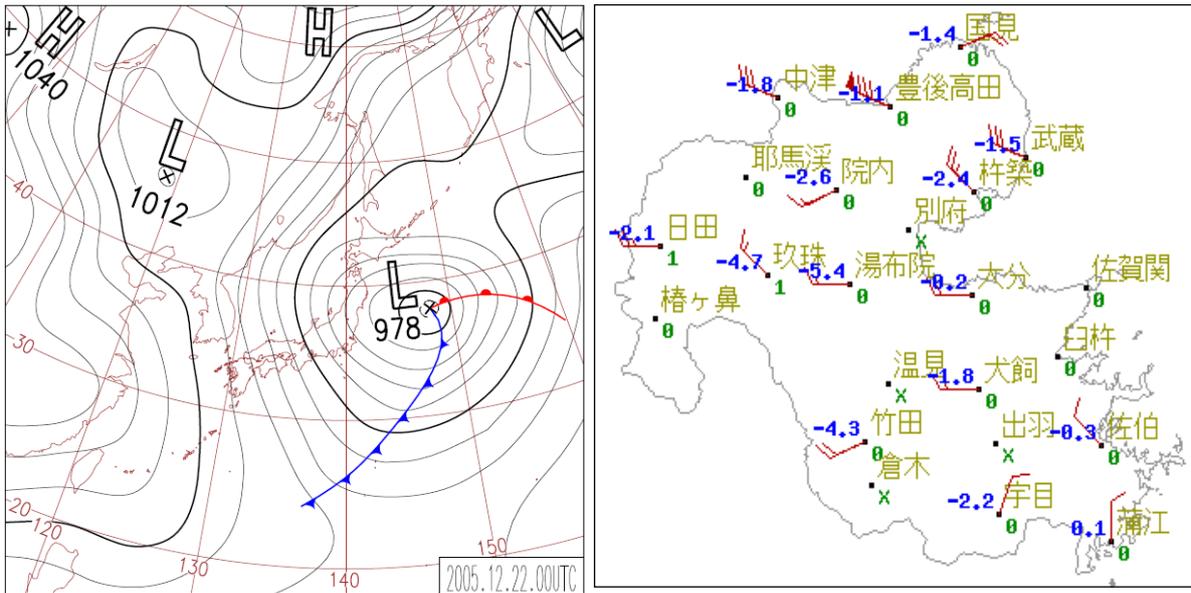
1128 平成 17 年(2005 年)12 月 21 日～22 日の大雪・強風による積雪害・海上波浪害

(冬型)

[気象概況]12 月 21 日から 22 日にかけて西高東低の冬型の気圧配置となり、上空約 5,300m で氷点下 36℃以下の強い寒気が流れ込んだため、大分県では、山間部を中心にほぼ全域で雪が降った。22 日 07 時に中津で積雪 2cm、日田で積雪 2cm を観測した。

[参考] 積雪状況 22 日 09 時 玖珠(玖珠消防署) 15cm

22 日 07 時 湯布院(由布市消防署湯布院出張所) 9cm



地上天気図 12 月 22 日 09 時

12 月 22 日 06 時のアメダス観測値(風・気温・降水量)

極値表			
観測項目	観測値	起時	観測地点
日最大風速・風向	8.3m/s 北西	21日 24h00m	大分
	8.2m/s 西	21日 20h40m	日田
	17m/s 西北西	22日 02h40m	豊後高田(a)
日最大瞬間風速・風向	21.8m/s 西北西	21日 23h22m	大分
	15.5m/s 西	21日 21h29m	日田
降雪の深さ日合計最大	0cm	22日	大分
最深積雪	1cm	22日	大分
日最低気温	-1.6℃	22日 03h01m	大分
	-2.6℃	22日 05h39m	日田
	-5.5℃	22日 07h20m	湯布院(a)
	-4.9℃	22日 07h10m	玖珠(a)

[被害状況]積雪と強風のため交通障害があった。路線バス関係では22日に大分バスは、大分市内の団地や山間部の一部路線、大分交通と亀の井バスは、別府市内の山間部の一部路線で始発から運行を見合わせた。日田バスは始発から全路線で運転を見合わせた。高速バスは大分-長崎便、大分-熊本便、大分-鹿児島便は終日運休。大分-福岡便は始発から運行を見合わせた。フェリーでは国道九四フェリー(佐賀関-三崎)、スオーナダフェリー(竹田津-徳山)、佐伯・宿毛フェリー(佐伯-宿毛)等が一部欠航した。航空便では名古屋発大分行き全日空385便と、折り返しの386便が欠航した。大分発東京行き日本航空1780便など大分空港発着の計4便が最大約40分遅れた。道路関係では22日大分自動車道の鳥栖ジャンクション-別府インターチェンジ間、宇佐別府道路、日出バイパスの速見インターチェンジ-日出インターチェンジ間は通行止めが続いた。一般道路も県北部、西部や山間部を中心にチェーン規制があった。

[その他]県内の公立学校は22日積雪の影響で、県西部や北部を中心に128校が臨時休校や自宅待機にしたり、登校時間を遅らせた。県教育委員会のまとめ(22日10時現在)では、臨時休校は日田地方の小・中学校を中心に12校、自宅待機12校、途中登校104校であった。

被害状況				
死者・行方不明者		人	道路破損	か所
負傷者		1人	橋の流失	か所
被災者		人	鉄軌道被害	か所
住家	全壊・全焼・流失	棟	山崖崩れ・地滑り	か所
	半壊・半焼・一部破損	棟	堤防決壊	か所
	床上浸水	棟	通信施設被害	14 回線
	床下浸水	棟	材木流失	m ³
耕地	流失・埋没	ha	山林焼失	ha
	冠水	ha	船舶被害	隻
農業被害		ha		か所
				1094 万円
水産業被害		隻		か所
				1420 万円
林業被害		m ³		ha
			か所	1387 万円
交通	陸上	運休		
	海上	欠航		
	航空	欠航 2便 遅延 4便		
電力・水道被害		停電 947戸		
被害資料の入手先		大分県、大分合同新聞		